

研究テーマ 『 一人ひとりが輝く学校作り ～児童養護施設との連携を通して 』

ア 人権教育としてのねらい

本校校区には児童養護施設が2つあり、そこから児童が通っている。児童一人ひとりに目を向け、それぞれの個性が生かされるような取組が必要である。自分の大切さを知ると同時に他の人の大切さにも目を向けることで、豊かな人権感覚を育てることができる。様々な問題を抱えた子どもたちが、周りの人によりよい人間関係を構築することにつながる指導を考えていく。

イ 研究の概要

本テーマにせまるために、まず「自分の大切さ」に気付くことが大切だと考えた。自分の権利や良さを知り、それを守ろうとすることから、周りの友だちも同じように大切にしなければいけないことに気付かせたい。自分の良さについては、自分ではなかなか見つけられないので全校アンケート、CAPによる権利の学習などを通して、自分をより深く見つめられるように計画した。

相手も大切にするためには、互いに交わす言葉が重要になってくる。普段使っている言葉に目を向け、情報モラルの学習へとつなげた。いじめについては全学級で力を入れて取り組んだ。

領域	教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	5年担任	推進教員	全学級担任	CAPスペシャリスト
実施日	9月18日～10月18日	7月10日	12月2日～24日	10月23日
取組名	「豊かな言葉の使い手になろう」	「最高学年としての姿」	「いじめ」について考える人権月間	「自分の権利を守ろう」
目標	言葉の使い方や言葉から受ける感じなどに目を向け、相手の立場になって言葉を使うことができるようになる。	他の学年が自分たちをどう見ているかを知り、良いところをさらに伸ばそうという気持ちをもって学校生活を送る。	いじめは許されない行為で、いじめ問題を解決するためには一人ひとりが自分の問題として考えることが大切であるという認識を深める。	児童自身が人権意識をしっかりと持ち、暴力から自分を守るための基本的な知識や技能(スキル)を身につける。
資料名	「インターネットライフガイド」(外部資料)	「仲よし活動」(新ほほえみ5・6年)	「いじめを許さない人権教育教材」(低・高学年用)	「CAP小学生プログラム」
指導内容や指導方法の工夫等	土曜参観の3校時に保護者向けの「情報モラル講座」を開いた。国語の授業に関連付け、そこで使ったパンフレットを使用して、クラスでも授業を行う。保護者と児童の両方に同じ資料を配付し、学習することで、家庭で情報モラルに関する話ができるようにした。また別の日に、神戸中央少年サポートセンターの方から、携帯に関する指導を受けた。	この学習に入る前に、全クラスの児童に「6年生のかっこいいところ・すごいところ」というアンケートをした。全教員は「もう少しがんばればよいこと」を書き、それを資料として配布した。授業の最後には、ペアの1年生からの感謝の手紙を渡した。全校児童からどう見られているのかを知ることで、自信と責任につながるよう工夫した。	人権週間をきっかけに学校全体でいじめについて考える人権学習を行う。導入では、低学年は絵本、中・高学年は視聴覚教材を活用し、より関心をもって取り組めるよう工夫した。導入後は、県から出された教材とその他副教材を使って学習するよう全4時間で計画をした。学校でテーマや教材をそろえることで、より効果的に学習を進められた。	CAPプログラムを実施するにあたり、全職員が研修を受け、自分を大切にすることの重要性を学んだ。学習の中にロールプレイを用い、解決方法を主体的に見つけられるよう工夫した。学習後は、相談したいことがある児童に、それぞれが抱えている問題を話せる場を設定し、児童の心が少しでもほぐれるようにした。